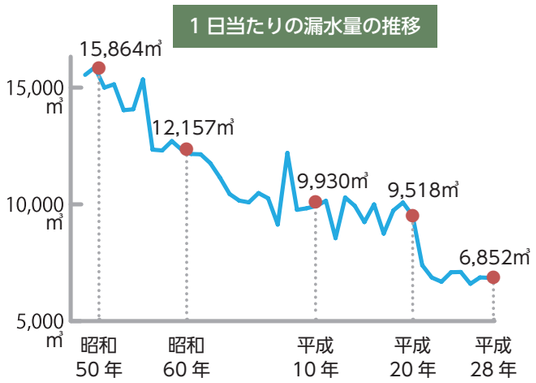
シリーズ 佐世保の水事情と石木ダム 5

「漏水対策」と「水源の確保」

浄水場でつくった水が各家庭に届くまでの間に失われる水のことを「漏水」といい、主に水道管の劣化や破損などによって発生します。佐世保市は平野部が少なく、急峻（きゅうしゅん）な斜面地が複雑に入り組んだ地形をしており、高部地区にも多くの住宅が存在します。そのため、水道管の水圧を均一に保つことは難しく、低部地区ではどうしても高水圧となることから、水道管の破裂などが発生しやすい地勢条件にあります。また、本市の水道は旧日本海軍から受け継いだ施設が多く、全国他都市に比べると老朽化が進んでおり、このような地勢条件や歴史的背景が漏水を発生しやすくしています。

本市では、浄水場から送り出した水のうち約 10％が漏水によって失われていますが、これは全国的にみてほぼ平均的な水準です。昭和 40 年代前半までは、もともと不利な条件下にあることに加え、戦時中の空襲によって水道を含むインフラ全体に大きなダメージを受けたため、その修繕・復旧に多くの労力を割く必要がありました。そのため、漏水対策まで手が回らず、日量にして 15,000㎥を超える漏水が生じていましたが、その後本格的な漏水対策に取り組み、現在では当時の半分以下となる日量 7,000㎥前後にまで削減（右図参照）しており、全国の平均的な水準にまで向上しています。

漏水対策は相応の経費に加え、経年劣化によって発生するため間断なく継続して行っていく必要があり、本市ではこれまでにも漏水対策として約 230 億円の経費を投じてきましたが、これは本市が石木ダム建設で負担する経費の 2 倍以上の金額です。また漏水が多いと思われる箇所の対策はおおむね完了しているため、今後の漏水対策はどうしても効率が悪くなってきます。仮に全ての老朽化した水道管を取り替えるとなると、約 1,100 億円の経費が必要になると見込んでおり、市民の皆さんの負担などを考えると現実的に一度に全てを実施できない状況です。



水は貴重な資源ですので、佐世保市の財政規模や市民の皆さんにご理解いただける範囲で、これからも漏水を減らしていく努力を続けていきます。最終的には大都市圏並みの漏水 5％を目標として、長期継続的な取り組みを行っていく予定です。しかし、石木ダムで新たに確保する必要がある水源量は日量 40,000㎥であるのに対し、現在の漏水量は約 7,000㎥程度で、これを大都市圏並みに減らしたとしても日量 3,000㎥前後しか削減できません。そのため、本市では漏水対策だけでは水源不足の解消にはならず、新たな水源確保と漏水対策の両方が必要となります。

問水道局総務課、水源対策・企画課　☎ 24-1151

市からの広報番組など

文字情報とアナウンスでお知らせする「させぼ市政だより」と市長が出演する「キラっ都させぼ」を民放 4 局（週替わり）で約 5 分間放送しています。どうぞご覧ください。

土曜 9:25 NBC、11:45 KTN、17:25 NCC、日曜 6:30 NIB
「キラっ都させぼ」　第 1・3 土曜 NBC、KTN　第 2・4 土曜 NCC　第 2・4 日曜 NIB
※「キラっ都させぼ」はテレビ佐世保でもご覧いただけます（毎週日曜 18:55）。

● FM 長崎（5 分）火曜 9:05 ● FM させぼ（55 分）金曜 13:00、16:00（再放送）、土・日曜 8:00（再放送）●長崎新聞 毎月第 2・4 火曜● NBC 長崎放送「d ボタン」

YouTube 版

プレゼント応募

人の動き（9 月 1 日 現在）
総人口 249,779 人（前月比 −122 人）　男性 118,271 人（−54 人）女性 131,508 人（−68 人）
世帯数 105,578 世帯（前月比 −24 世帯）8 月中の動き　転入 742 人、転出 793 人　出生 160 人、死亡 231 人

市長日記　自身の成長やビジネスチャンスの拡大に国際交流の活用を！

ことしは中国厦門（アモイ）市との友好都市提携 35 周年、オーストラリア・コフスハーバー市との姉妹都市提携 30 周年の節目の年です。本市は姉妹都市・友好都市との公式訪問をおおむね 5 年ごとに行うこととしているため、7 月から 8 月にかけて、両市を訪問してきました。

日程や訪問団は 12、13 ページの記事のとおりですが、厦門市長やコフスハーバー市長をはじめ、両市の友好団体などの皆さまに本市の訪問団を大変温かく歓迎していただき、交流事業も成功裏に終わることができました。

このように両市ともに良い友好関係が築かれているのは、今回のような公式訪問だけでなく、国際交流民間団体や教育機関、市民の皆さまなどが長年にわたり積極的に交流活動を実施してこられたおかげであると思います。

これまで厦門市とは技術研修生受け入れや本市職員の派遣、コフスハーバー市とは中学生の相互ホームステイ事業などを中心に交流してきました。特に民間活動を含めた交流事業が積極的に行われているのは、両市が友好都市、姉妹都市ということで、しっかりした信頼関係とサポート体制が築かれているからではないでしょうか。

厦門市での友好都市提携35周年記念青少年文化交流事業の様子

これから、日本においても、佐世保市においても、それぞれの個々人においても、国際交流は文化・教育・スポーツ交流にとどまらず、経済・技術・観光・輸出入などビジネスにおいても、ますます発展していくものと思います。市民の皆さまには、厦門市、コフスハーバー市だけでなく、米国アルバカーキ市・サンディエゴ港、中国瀋陽（シンヨウ）市、韓国坡州（パジュ）市・釜山広域市西区との姉妹都市（港）とのつながりを有効に活用され、ご自身や子どもさんの成長、ビジネスチャンスの拡大などに、ぜひつなげていただきたいと思います。次の交流機会には、さらに多くの皆さまが参加されることを期待しています。

佐世保市長　朝長　則男

徳育通信 80　聞いて「徳」する話 41　老いても変わらない親の愛

私の両親はことし 83 歳になります。親子離れて住んでいますが、幸い二人とも卓球を楽しめるほど元気です。最近少々認知症が始まっていて心配ですが、当の本人たちはそんなことお構いなしです。

ある夜、仕事帰りに様子を見に行くと、ちょうど晩ごはんを食べていて、私を見るなり「おでんを食べていけ」とうれしそうにしていました。私は家庭があるので「帰って食べるよ。元気なら良かった。じゃ、また来るね」と早々に帰ろうとしました。すると二人とも箸を置き、玄関先まで見送るのです。そして、おもむろに「玄関を出たら階段が暗いから気を付けて」と言うのです。その瞬間、私は涙が出そうになりました。私が子どもだった頃と全く一緒。子どもの頃、私が勢いよく家を出ようとしたら「車に気を付けて」と言われたことが瞬間的に思い出されたのです。

私はもう 52 歳になります。でも両親にとって私はいつまでも子どもなのですね。老いてもなお子どものことを心配する。親の愛です。そんな両親がこの先認知症が進んでいくであろうことを思うと胸が締め付けられます。先のことは分かりません。でもこの愛情あふれる両親を私は今でも尊敬し誇りに思うのです。

徳育と少し話しが外れてしまうかもしれませんが、親子の絆、それは道徳を超える愛情だと思います。佐世保の徳育宣言には「感謝と思いやりの気持ち」とあります。ただその根底には、人と人の間に、うわべだけではない愛情が必要な気がしてなりません。

（50 代 匿名）

「聞いて徳する話」を募集中です。応募用紙は徳育推進会議事務局で配布し、市 HP からダウンロードすることもできます。
問佐世保徳育推進会議　☎ 23-2856